

~~修士~~ 博士論文審査結果報告書

平成 29 年 2 月 10 日

論文提出者	論文審査担当者
専攻領域 リハビリテーション科学領域	審査委員（主査）前田 潔
専攻分野 生活支援補完学分野	審査委員（副査）奥 英久
氏名 竹内 さをり	審査委員（副査）春藤 久人
論文題目 高齢者ケアに対する市民の意識醸成に関する一考察 ～スウェーデンと日本の市民への意識調査から～	
審査結果 <p>論文提出者らは、日本およびスウェーデン（以下、ス）において、2012 年と 2013 年に市民等を対象に、「高齢者ケアに関する意識」について質問紙を用いて調査を行った。調査回答者数は、スが男性 13 名、女性 19 名の計 32 名、平均年齢 67.8 ± 7.5 歳、日本は、男性 34 名、女性 112 名、計 146 名、平均年齢は 59.8 ± 14.6 歳であった。スではケアを自らのものとして考える意識が高い点が日本と比べて特徴的であり、ケアサービスの周知度も高かった。ケアサービスの情報収集方法を知っているか、との問いには、スでは全員が知っている、と回答しており、日本の、約半数が知っているという結果と際立った相違を見せていた。その他の調査結果を含め、スでは「支えられるために支える」という考え方、幅広い年齢層が社会保障のメリットを実感しやすい環境、ケアを高齢者に限定した考え方に留めない自律社会構築への志向が明確などが認められ、それにより市民の高齢者ケアへの関心やその質を高めることに繋がっていると考えられ、日本の地域包括ケアシステムの実現ために、長い年月をかけ、市民が高齢者ケアを自らのことと捉えるスの仕組みから、わが国が学ぶべき点は多いと結論した。</p> <p>本研究に対し、審査委員からは、住宅事情の違い、人口の高齢化のスピードの違いなどを考察する必要があるといった意見や、質問紙に用いられている言葉の定義づけなどに関し質問があり、提出者は、これに對し的確に回答した。</p> <p>以上、提出された論文は価値ある業績であると評価できる。よって、論文提出者は、博士の学位を得る資格があると認める。</p>	
審査委員（主査） 署名 前田 潔 (印)	